

風土九録

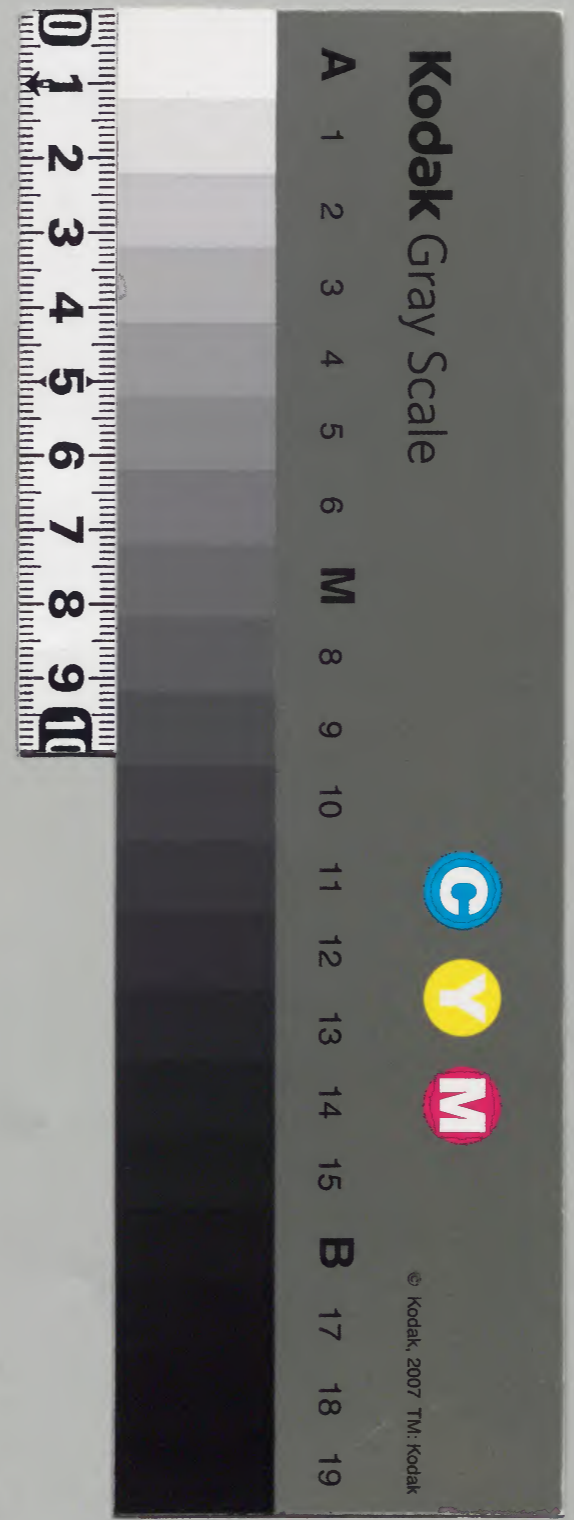
農務省
圖書
第六五九號
共五冊

大政官文庫
和書門
一三二七
五冊架函號

內閣文庫
和書類
一三二七
五冊架函號

內閣文庫	
番號	和 11327
冊數	5 (4)
函號	176 104

風土

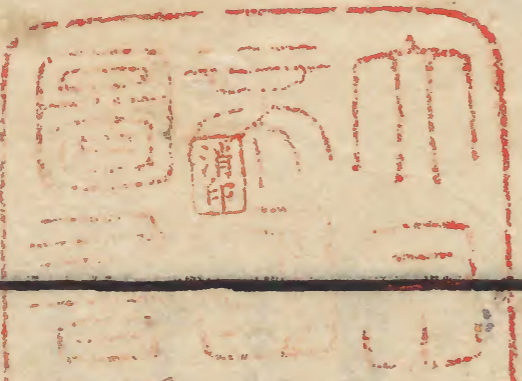


五六〇八番

長崎聞見録卷之四

目錄

明治十三年購求



朝鮮人
挑燈
蜜大
玉案盤
紅毛人



朝鮮船之番
阿蒙陀屋浦
蜜牛
裸体人形



唐人學問_具三堂の吏

うびんもの

恵坊

唐人疾病の事

水揚号袋

阿蒙陀船之圖

長崎聞見録

卷之四 目錄

その船と云ふより藤崎のほろりやうなるもの。大なるは七八間、小なるは五六間
 あり。船の船色磁石トマヤより織釘を造る。一向を造るもの、一向用ひる
 方よあり。日本にて彼方の修シヨマと云ふ人下なるものあり。織釘を用ひ
 終シヨマが。ちよと云ふ所なるものあり。あつたの地。織釘をつく。よふ色アキイロ郷下アキイロの漁
 者なるものあり。ついでといふ所の所アキイロと云ふ人あり。そ人あるは、ひふ
 船フネ乃ナリくクらラたタのノ船フネと

船人



挑燈
ちやうちんへ。紙と紙を結んで
大小の差をたふ。持ちやすい。
とけりけし

紙と紙を結ぶ



船形舟



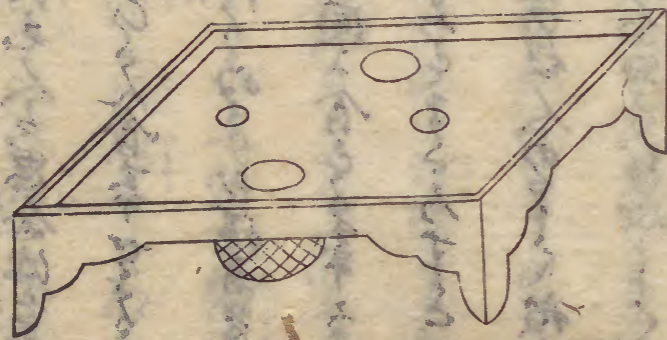
後。さき以人斗の類あり。四方のふらへ。漆塗の皮をそぎ。その内へんや
 の入る。藩園を愛。一方より皮れ枕。一方より皮をこしあり。みかを茶よ
 造り。粥するものなり。中々次のるより。二指を袖のあし。二方の面戸。漆を
 比し。夏月まで。毛織の衣敷して。幕を張る。海面一平ふあ。涼風ふ
 める。曲糸之箇。一人をわびぐん。一人の醫師。一人を侍るなり。始終曲糸
 よりりて。懸揚する。彼地。密漬の密相成り。す。を味ひし。あつなり。又密漬
 の生。妻あり。け生。妻をたふす。さう。小番和なり。まこと。とまるとの。飯
 つ。と。そ。る。夏。話。し。く。知。れ。し。る。と。の。よ。て。よく。脾胃。を。消。和。と。味。ひ。清。ん。
 又。酒。と。い。ふ。と。らん。た。酒。を。を。味。味。別。なり。又。さん。あ。つ。と。た。さん。於。酒。中
 の。の。味。ひ。と。う。く。わ。せ。り。ま。ま。苗。香。酒。を。苗。香。の。匂。ひ。あ。つ。と。味。ひ。猪

和せり。又葡萄酒とす。一。味ありて。ほ。和。く。なり。さて。是。より。花。を。一
 け。小。花。を。あり。ま。く。の。日。本。の。草。花。を。種。く。貴。穀。と。う。り。する。り。密。地。の。草。を
 け。か。つ。の。く。大。種。なり。け。花。を。の。種。を。ま。り。の。か。つ。種。く。の。小。を。と。何
 ぞ。なり。又。年。ふ。く。せ。り。或。る。小。種。を。る。ま。や。と。ま。こ。と。や。ん。げ。り。る。る。を。を。
 物。く。種。の。種。を。なり。ま。ま。種。の。ま。二。つ。あり。た。と。種。の。く。く。る。り。ま。ま。の
 種。く。種。く。あ。か。り。お。向。ひ。者。く。種。を。種。く。ま。ま。向。ひ。は。ま。く。目。面。を
 け。方。の。あ。と。突。く。ま。わ。る。を。種。く。く。ま。れ。た。た。を。種。の。く。く。を。種。を。種。れ
 度。綱。の。袋。け。り。彼。ま。い。袋。を。入。る。と。種。く。く。る。り。を。ま。ま。後。の。い。と。と。
 種。を。是。より。種。を。種。け。り。は。種。を。堂。の。下。種。あり。ま。中。より。種。を。種。と。種。
 種。の。たる。る。種。を。種。の。四。面。種。り。と。種。を。種。り。と。種。を。種。り。と。種。を。種。り。



獵犬

漢名
犛牛即犂牛



玉宴盤

婦人裸体人形

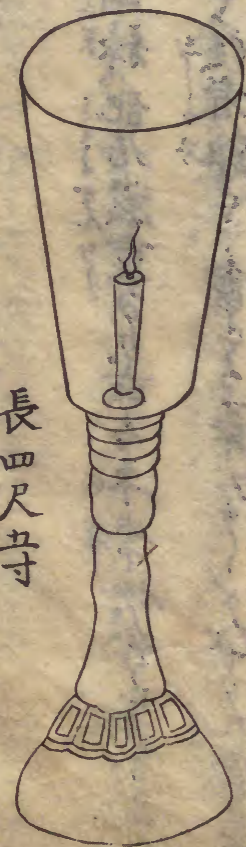


春

夏

秋

冬



硝子

長四尺寸

長崎問目録

卷之四

五

すふおりの。おとけいひとせらひくきあり。さういひかきまをせんと
 考へ。後とも度するさうやうに程も用也。えより日本の飲酒のやう
 ぶ。飲酒痛飲しく。輝酸するさういひする。決してたさるなり。さて
 ずい銀肉の徳酒。いふさうの佃度。徳酒のありき。けおと某の方
 へ。接せりたなど。竹人さるものいりて。いむたんは。昔も徳酒といふ
 ぬなりとく。預細るさういひ向ふあがさるなり。そく又事より。徳
 若の吟味。徳酒とさういひ。いひく。教及。そく人。教十人の令と接せり
 とも。一向うりさるなり。さて又日本より種くる徳酒をそれく。これ
 ひりく。各く。唐人より種入るさういひ。その酒とく。種くるものさ
 王入。紅毛人を種さす。そ。藤略さる。いひ。徳酒さる。中。國とく。莫方の

換去ありと。いひ。と。再。来。れ。時。ける。故。一。向。福。さ。事。な。り。あり。ふ。よ。
 或。と。種。と。種。く。彼。若。く。藤。略。の。お。故。と。く。一。なる。唐人へ。ふ。高。き。價。な。り。
 種。く。れ。品。と。あ。つ。つ。あ。る。あり。そ。者。は。度。と。余。り。の。高。き。さ。り。と。た。び。く。
 彼。徳。酒。故。佃。造。さ。る。ふ。種。く。の。難。と。は。も。て。一。向。お。く。い。は。と。れ。そ。唐人
 曾。く。藤。略。の。品。と。い。く。高。き。と。い。さ。る。百。倍。と。換。去。あり。と。志。熱。と。さ。る。さ。い。
 ち。と。は。方。より。い。さ。る。品。徳。事。丁。事。と。す。中。國。そ。存。の。わ。り。意。あ。れ
 ち。後。来。の。品。種。く。れ。去。産。の。と。種。さ。る。あり。種。く。る。唐人へ。唐人を。思。り。の
 ち。の。め。て。動。と。さ。る。唐人。大。勢。動。揺。して。本。石。の。品。を。唐人へ。い。ひ。り。て。種
 ち。と。さ。る。唐人の。種。く。れ。種。く。種。く。事。な。り。あり。又。一。向。陽。の。人。い。ひ。く。
 お。毛。人。より。入。る。人。種。さ。る。唐人。より。と。ま。す。と。日。本。人。種。さ。り。と。曾。く



びんとハ阿蘭陀の徳國賣船の舟に役して日本に歸していつては船中
 のとれもの之。船頭と云ふこと。船頭を別と云ふこと。船中のものこと。同と云ふ。船
 六月の末。七月初ましく。毎年此地より出帆。此地より船頭ありのる。船頭あり
 出帆阿蘭陀船(と揚と云ふ)も。多くは船頭あり。びんとハ始終出帆船内小
 舟より。むね年あるのびんと。南は長江に船頭。船頭と云ふこと。して。八月
 出帆の長江。南年と云ふこと。びんと。又本年まで此地より出帆。毎年と云ふ
 船のどくと。と云ふ船頭。本年日本に船頭あり。あつてはくうびんと。本年船頭
 船に。と云ふこと。船頭より船と云ふこと。彼阿蘭陀を。海内と云ふこと。
 船頭と云ふこと。船頭。國と云ふこと。日本に船頭あり。此地の船頭の徳國と云ふ

ざる地なり。ましく。と云ふこと。此船ありて。賣船と云ふこと。さるなり。
 日本へと云ふ船。と云ふこと。と云ふこと。出帆ありて。是よりはくうびんと。日本
 よりと云ふこと。と云ふこと。四百里あり。と云ふこと。日本國へましく。四百里を
 けり。阿蘭陀。日本の九島程の小國をましく。天文地理の書。又激細と云ふ。
 新世界の味。の味。と云ふこと。彼地の書。見入るなり。船と云ふこと。と云ふこと。
 此船と云ふ役船あり。け船と云ふこと。と云ふこと。人の知る。と云ふこと。國と云ふ
 船と云ふこと。と云ふこと。船頭と云ふこと。と云ふこと。或は船頭。國と云ふこと。船頭
 船と云ふこと。と云ふこと。出帆の船と云ふこと。船と云ふこと。船と云ふこと。船と云ふこと。

黒崎 漢名鬼奴

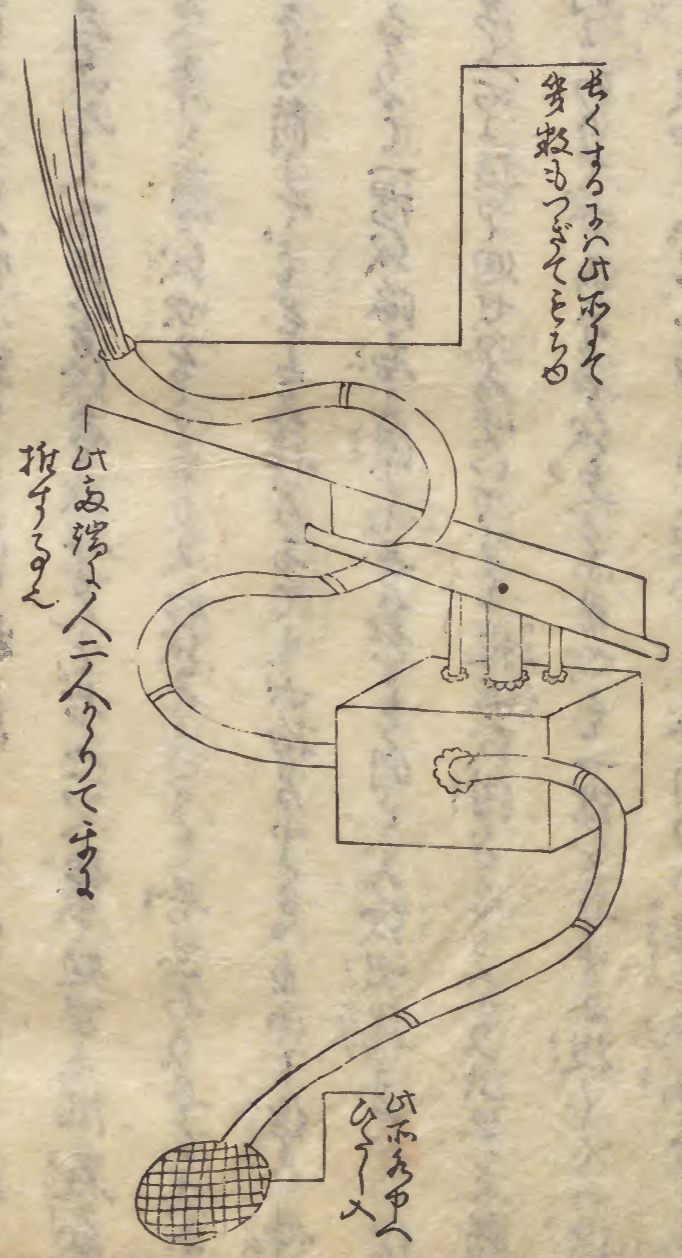
長崎を河蘭陀人連に譲り。奴僕としてはるるのそと國領がづらと云。
 大國よそ由大竺の西南あり。國名をいふ更なり。唯而くは頼分のそのわ
 るなり。大熱風よそをよつくとあを故長崎すはるるなり。け地ありあり
 二三年もよそをよそ延居るなり。大紳日本のまをよそなりと。よそありあり
 ねたりよりより國名。あつたりより決しくる地あり。長崎始て日本よまあり。
 ありよりよりあつたりより。長崎の事よそあり。け長崎をを性管せよ。法
 別はよそ人のあふ。身骨は厭やするなり。或はよそに捨ちたり。そもありあり。
 そ今の老にともあつたり。よく御し。まありあり。紅毛人もく連にとも。
 紅毛の法よ随てしむるふ。おれはよく法せり。あつたり。あ會敷とけはよくあり
 撲戒めくけ。あつたり。強く。まはよそに。あつたり。あ殺して海を人捨るなり。

紅毛人疾病之事

紅毛人疾病の時。彼葉の方劑を。酒を彼地よあつたり。彼地の醫をよ
 よ。勞瘵。水腫。咳痰。諸難病は彼葉傳治ありあり。尤紅毛の風俗。唯大便の
 秘結よつたり。是をよ平。肉食はあつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。
 是は熱風。暑と熱まよ。大腸。熱。灼し。大便秘。よつたり。よつたり。よつたり。
 寒風をよつたり。よつたり。十一八九は癰瘍。瘰癧と患るあり。あつたり。故し
 自然に外科。治あり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。
 調劑を隨分あり。よつたり。唯鹹魚の樹へ。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。
 肉食の發動。多熱の病。あつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。
 毛人鄙僕とよ。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。よつたり。

水揚号室

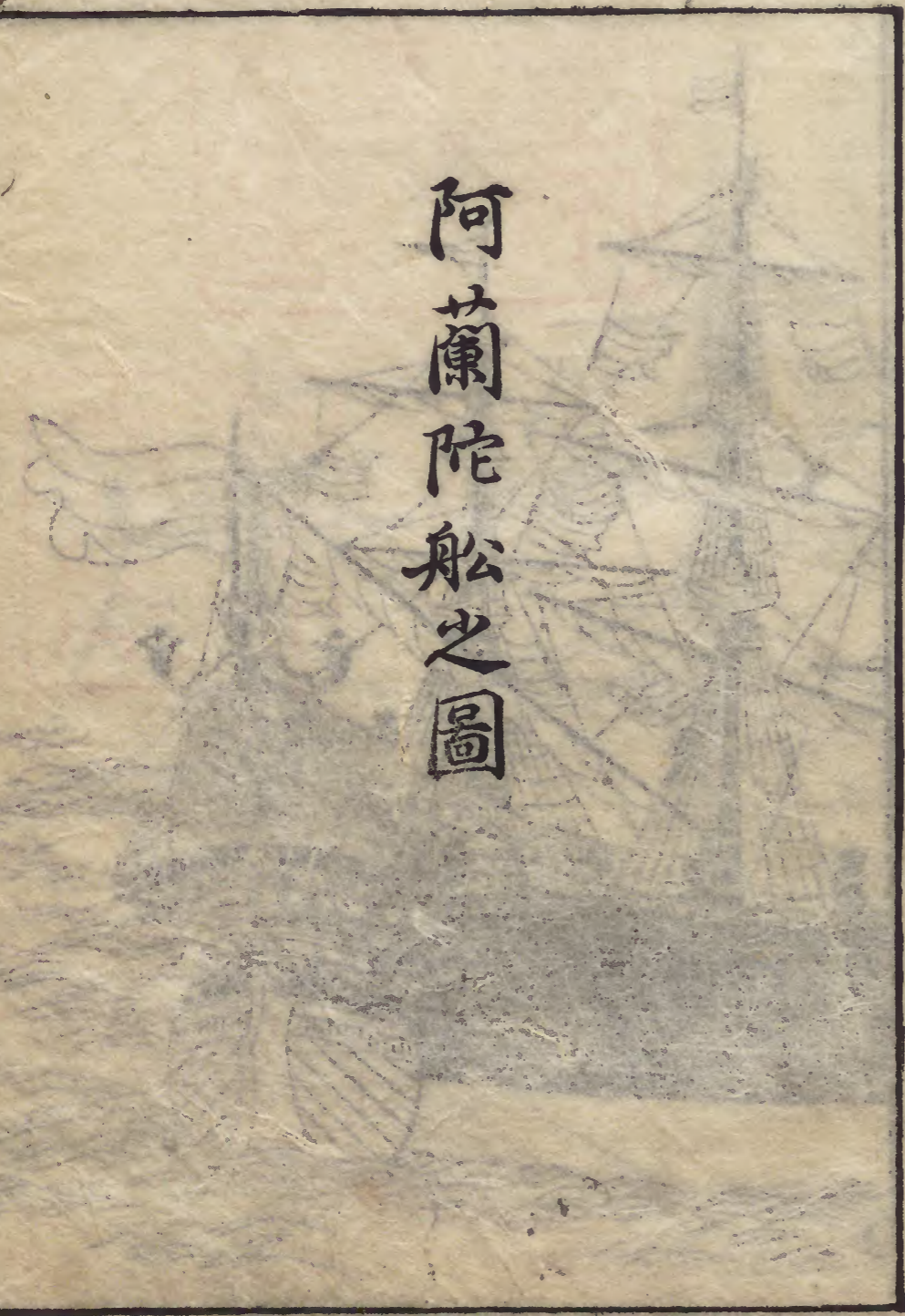
長くするより此の如く
多敷もつてとらる



此の如く二人くわつてす
指する

此の如く
くわつてす

阿蘭陀船之圖

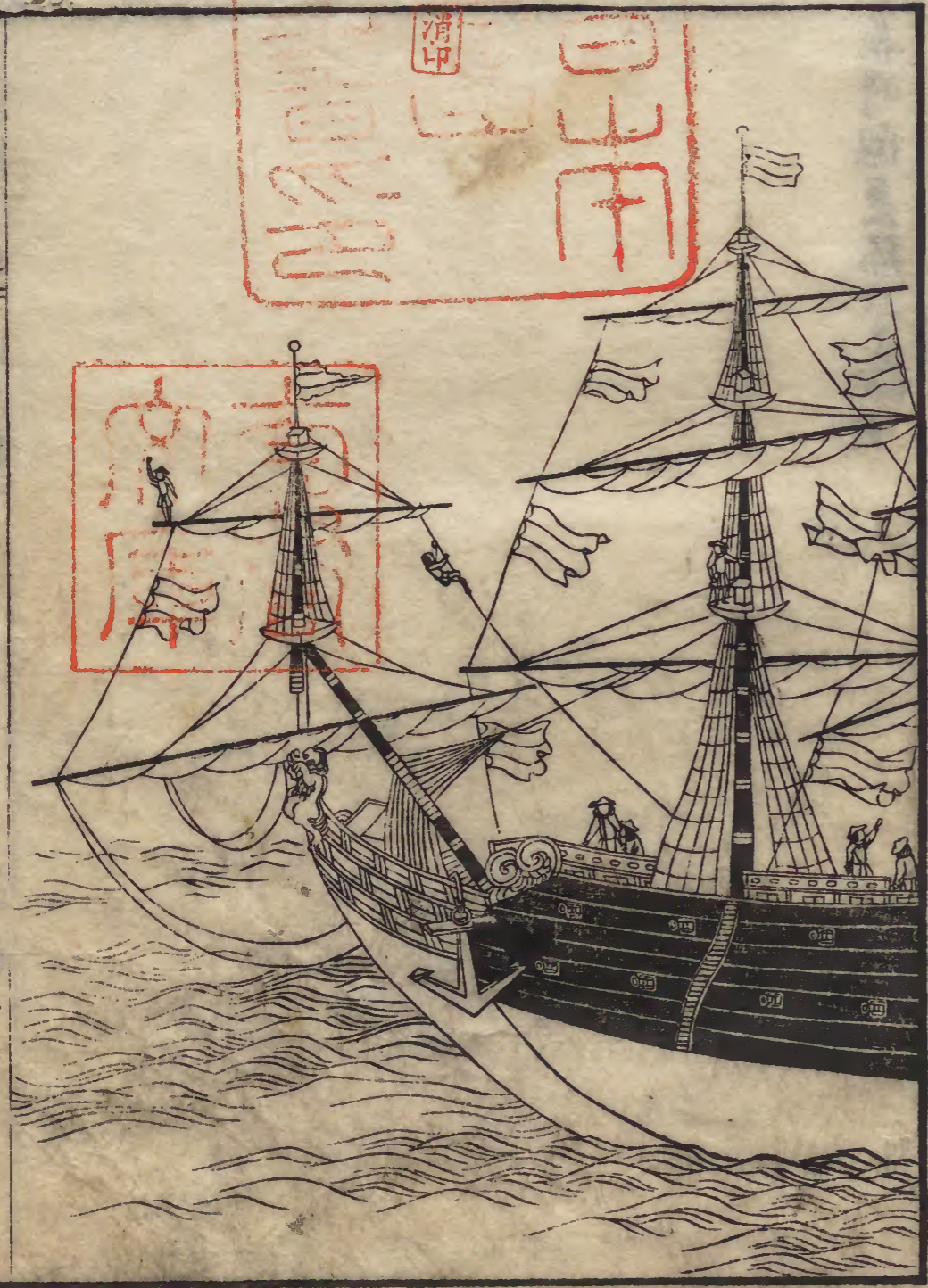


中山國圖

清甲

中山國圖

中山國圖

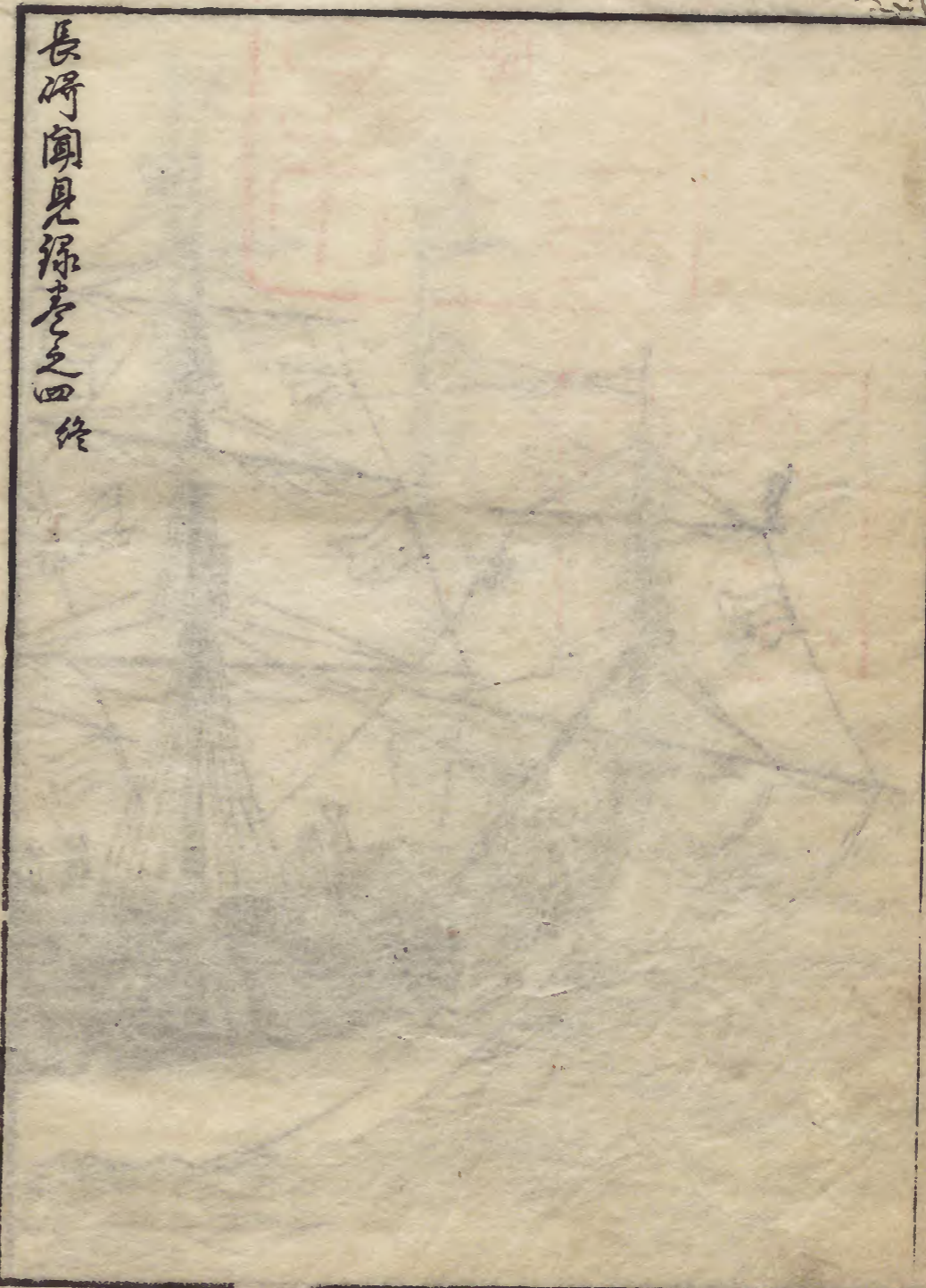


長山國圖

長山園具録

卷之四

終



長山園具録卷之四終

